

あびこ型「地産地消」推進協議会

会報 第41号

2016年7月15日発行

*** 目次 ***

1. 会長挨拶
2. 13回定期総会について
3. 新役員・実行委員
4. 農力発見プロジェクトについて
5. 協議会ホームページ「リニューアルオープン」について
6. 新副会長紹介
7. 新事務局紹介
8. 第13回援農ボランティア養成講座開催について
9. 編集後記



発行：あびこ型「地産地消」推進協議会 会長 三宅 輝夫

住所：270-1155 我孫子市我孫子新田 22-4（あびこん内）

（業務日 月・火・木）Tel 04-7128-7770 Fax 04-7128-7771

E-mail abikochisanchisyokyo@sky.plala.or.jp

URL <http://abiko-chisan.com>（あびこ地産地消コム）

1. 会長挨拶

三宅輝夫会長



去る5月21日に開催された当協議会第13回定期総会におきまして、会長にご選任いただきました三宅です。この一年、会員並びに役員各位、市役所をはじめ広くご関係の皆様方と共に力を合わせて、総会でご承認を得た「事業計画」に即して協議会活動の推進に微力ながら努めて参りたいと念願しております。

総会の回数が13回にもなりました経過におきましては、その活動もいろいろに変化してきており、端的には「多様化」が進んだと感じられます。協議会創設時の「地産」を中心とした展開から、時と共に新たな要素を付け加えられ、文字どおり「地産地消」を標榜出来るような拡がりになって参りました。これはとりもなおさず、多くの先人の方々により営々と続けられてきた努力とその成果の積み重ねの賜物と実感いたします。

さて、これからの一年を想いますと、活動として定着してきている諸事業分野はもとよりのこと、新たに、我孫子市の運営になる「水の館」に農業振興の基幹施設が設けられる計画が進行し、関連して当協議会にも然るべき役割が期待されるなど、いろいろな環境の変化が予想されます。当協議会としては、これまでの「地産地消」活動の基本をしっかりと踏まえて諸事業を遂行しながら、新しい要請にも応えられるよう柔軟な運営を目指したいと考えておりますので、どうぞ、皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

2. 第13回定期総会について

総務部会長 齋藤 徳剛

あびこ型「地産地消」推進協議会の第13回定期総会が、平成28年5月21日(土)午後1時30分よりあびこ市民プラザ・ホール(あびこショッピングプラザ3階)で開催されました。

1部定期総会は、会員の出席49名、委任状の提出58名の状況にて会則により成立しました。続いて、会則に基づき米澤会長が議長席に就き、会則に基づき、総会議長に三宅輝夫副会長を指名し議事進行しました。議案は次の5案です。

第1号議案 平成27年度活動報告について

第2号議案 平成27年度収支決算報告について並びに会計監査報告

第3号議案 平成28年度活動計画案について

第4号議案 平成28年度収支予算案について 第5号議案 平成28年度新役員の選出について

審議においては、第1号及び2号議案関連では、予算をオーバーした場合には補正予算を組むなど所要の対応が必要ではなかったのか、又第3・4・5号議案関連では「水の館」について、学校給食部会予算について、繰越金・実行委員名簿・会則配布についてなどの質疑応答がなされ、挙手多数により全議案とも原案通り承認されました。

2部イベントの部では、「協議会活動の新しい取り組み」と題し、「あびこ農力発見プロジェクト」「協議会ホームページのリニューアルオープン」について各担当者及び福永淑子教授に説明をお願いしました。3部会員懇談会では、地元農産物を使い「あびこ農力発見プロジェクト料理教室」の成果の一部を応用して料理しました。約50名の参加を得て会員相互の懇親を深めました。

3. 新役員・実行委員

役 職 名	氏 名	実 行 委 員 等		
会 長	三宅 輝夫	力を合わせて 我孫子の「地産地消」を 推進しよう！ ～環境保全型農業をめざして～		
副会長	齋藤 徳剛			
副会長	大炊三枝子			
副会長	丸山 忠勝			
総務担当	小澤 俊輔			
会 計	小澤 俊輔	(農政課担当)	齋藤 寿義	片桐 圭悟
(顧 問)	鈴木 順一	米澤外喜夫	中野 栄	
エコ農産物普及推進 部会長	栗原 祐子	井出 史郎	今村 直美	◎細渕有里
		北島 正也	相馬 伸年	高須 泰輔
		日暮 俊一	和田 洋	
食育交流部会長	白澤 幸雄	◎陸川 良子	岩井 康	玉造 美枝
		豊田 徳良	宮内 俊郎	八澤 静江
		(農家委員)	香取 典男	相馬 英里
援農ボランティア 部会長	三宅 輝夫 (兼任)	井出 史郎	植木 康雄	長谷川朝範
		吉田 和子		
学校給食支援部会長	玉根 康久	植松 博	島 清	山崎 甫
		大竹 則幸		
	学校給食 コーディネーター	おりこし 折越 揚身	福本 定一	
広報部会長	にやくおうじ 若王子範文	植木 康雄	日暮 俊一	陸川 良子
		南 千春	武井 伸勝	
総務部会長	齋藤 ^{のりたけ} 徳剛 (兼任)	齋藤佳與子	中澤 建次	吉田 和子
あびこ農力発見 プロジェクト	大炊三枝子	米澤外喜夫	丸山 忠勝	白澤 幸雄
		齋藤 徳剛		
会計監事	飯田 寿昭	(注) ◎ 副部会長 順不同		
	仲原千津子			
事務局	小松 信彦	あびこ型「地産地消」推進協議会		

4. 農力発見プロジェクトについて

I プロジェクト設立趣旨及び事業経過説明

～その背景にあるもの

あびこ農力発見プロジェクト代表 大炊 三枝子

我孫子市は平成 27 年 7 月 1 日、千葉県から「水の館」とその周辺に広がる手賀沼親水広場の移譲を受けました。この移譲に伴い、平成 29 年度春の開設を目指して「水の館」1 階に農産物直売所を核とした農業拠点施設を造ります。

その内容につきましては、第 13 回総会時の資料をご覧ください、ほぼ、ご理解頂けると存じますが、これらの事業を取り組む背景として、我孫子市の農業が抱える現状と課題があります。

この現状と課題とは、我孫子市は農業が重要な産業となっていますが、農業者の高齢化が進み、後継者不足や生産力の低下により耕作放棄地も増加しています。1 農家当たりの生産農業所得は約 216 万円/年と近郊農業に比べて低い傾向にあります。

このような現状の中、農業を維持・継続させるための施策を早急に実施することが急務となっております。以上のような背景の下、我孫子市は手賀沼親水広場と「水の館」を県から譲渡される計画が浮上し、ここに新たな農産物直売所や飲食施設等を整備することを策定されました。今後の課題対応としましては、交流人口の拡大と農産物販売の促進、雇用の拡大を積極的に推進し、問題解決の方策に邁進する所存です。

このような目的を達成する手段として農業者と市民、商工業者等が連携した積極的な取り組みに繋がるものです。その取り組みこそが、今回の「あびこ農力発見プロジェクト」であります。

このプロジェクトの成功が、この我孫子市の農業の現状と課題の解決策となり得ることを祈りながら、皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

II. 農力発見プロジェクトとのかかわり（パワーポイント資料より抜粋）

チーム福永・農学連携プロジェクト代表

福永淑子教授

1. プロジェクトの目的

手賀沼を中心とした豊かな自然、農業の資源を活かした農業の魅力発見

これらの情報発信し、農あるまちづくり、地域の活性化を通して、調和のとれた地域実現を目指すことを目的として立ち上げたプロジェクトです。

2. 料理教室について

あびこ型「地産地消」推進協議会、農学連携プロジェクト（企画）、農事組合法人あびベジ（野菜の提供）、川村学園女子大学（料理教室の提供）、との連携により開催しました。

日程	参加者	テーマ	主な料理内容	使用した我孫子の旬野菜
7月25日	34人	「夏野菜のハーモニー料理：「トマトの詰め合わせを作ってみませんか！」	「トマトの詰め合わせ：トマト、キュウリ、白滝のジェノベーゼ」	ナス、ズッキーニ
9月13日	27人	「美食同源—地元の野菜で中華を楽しみましょう」	「酸辣湯（千切りした野菜と豆腐の酸っぱい辛いスープ）」	ネギ、きくらげ、人参、しいたけ、パプリカ、キュウリ
			「薄餅包満堂（季節野菜の薄皮ロール包み）」	カボチャ、イチジク、ブドウ

- 11月21日：33人：「今年のクリスマス料理はこれで決まり！」 我孫子旬菜パエリア」 ネギ、人参
 大根、柿、ほうれん草
- 2月6日：39人：「我孫子の春野菜を使っ」 ぎり春霞和え」 ほうれん草、白菜、春菊
 「玄米味噌の焼きおに：小松菜、菜花、からし菜
 た和食料理」

3. 農産加工について

モニタリング調査を経て、以下の開発成果を得ました。

(1) アイスクリーム加工品

- ① トマトとゆずのアイス ② ネギと豆乳のアイス ③ 里芋アイス

(2) 青いトマトの加工品

- ① 青いトマトのピリ辛漬け ② 青いトマトとの肉味噌 ③ 青いトマトとゆずのジャム

また、プロジェクトに先行して川村学園女子大学で開発された地元産トマトやにんじん等のジャム・コンポートについても、我孫子市農業と地元大学との連携事業の成果として、そのPRに協力しました。

5. 協議会ホームページ「リニューアルオープン」について

HP検討委員会 植木委員長

協議会の第13回定期総会において、新ホームページの概要説明を行いました。

1. リニューアルまで

- 平成27年5月の12回総会で広報部会業務としての現ホームページのリニューアルが採択され、協議会6部会より1名の委員による「HP検討委員会」が正式に発足しました。実際のスタートは27年3月で、毎月1回以上の検討会を実施し、1年間延べ20回余の会合を行いました。



- 検討委員会では、なぜHPの更改が必要なのかを議論しました。

①現HPは開設後、10年有余が過ぎ、当初は協議会を主体とした作りの為、年月と共に訴求力が弱まっている事。

②都度の更新が各担当者スキルでなされる為に、ページ表示や配置など統一性がなく見づらさが目立つ事などを認識しました。

- 検討委員会は新HPのコンセプトとして「消費者目線で見やすいホームページ」を目標に、内容は写真を多く、説明文は短めにする事としました。
- 作成に当たって我孫子市内に事務所のあるHP作成業者3社から6月に見積書・構成の提案を取寄せ、HPの構成・作成コスト・年間運営面などの内容を検討し7月の運営委員会に中間報告しました。

更に3社の作成内容を精査して、全体的評価の結果「iWac.jp(株)」と平成27年12月に契約を締結しました。

- 作業はトップページ構成から入り、内容が固まった段階で委員による各記事の原稿収集、28年1月市長インタビュー、教育委員会への説明了解（学校給食関係）を得るなどの作業を実施。平成28年2月下旬にHPの骨格が完成、「iWac.jp（株）」から検討委員への記事掲載研修を受け、3月22日に公開の運びとなりました。
- 公開後のHPの運用については通常の更新は各部会のHP委員・広報部会が担当し各担当者スキルでなく、組織として共通スキルで更新を行う事で進めます。
- 28年度はHPの安定運用と直売所マップのHP内に組み入れ作業（外部リンク先の為）や料理教室等のレシピの掲載を行う予定です。

2. ホームページの閲覧について

（検索方法:[あびこ地産地消コム](#)）（URL:abiko-chisan.com）で見られます）

3. 最後にHP検討委員メンバーの紹介を致しました。

6. 新副会長紹介

1. 大炊三枝子（株式会社あびベジ 代表取締役）



はじめまして

久寺家地区で営農しております大炊三枝子と申します。

日頃は貴協議会の皆様には大変お世話になっております。

3反の水田と2反程の畑を耕作しております。

その折には、貴協議会の援農ボランティアさんのお手伝いを頂き、お陰様にて作業が順調に進めることが出来ております。改めて、お礼を申し上げます。

この度は、貴協議会の農家代表として副会長の重任を賜り、身の引き締まる思いです。微力ではありますが、貴協議会の発展の為に働かせて

頂きたいと存じます。また、皆様、ご承知のこととは存じますが、農家が経営しております農産物直売所「あびこん」が平成29年春、「水の館」内に移転致します。その経営母体であります農事組合法人「あびベジ」を平成28年4月から株式会社「あびベジ」に組織変更致し、鋭意準備を進めているところであります。連携団体でいらっしゃる貴協議会におかれましては、「あびこん」発展の為に今後とも、今まで以上のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。就任のあいさつに代えさせていただきます。

2. 齋藤徳剛（兼総務部会長）

今日は齋藤徳剛と申します。昨年は総務部会長を拝命し、今年には副会長を兼任させていただくことになりました。地産地消の知識は少ないですが、興味は少しあります。能力不足ではありますが時間はたっぷりあります。来期の本格農業拠点開設を控え、地産地消にとっても大事な時期を迎えます。課題も多い現状ですが、新会長を補佐し、多少は会のお役に立てればと思いますので、よろしくご指導ご鞭撻お願いします。



3. 丸山忠勝（農政課長）

この度、あびこ型「地産地消」推進協議会の副会長に就任いたしました丸山です。4月に農政課長になり、協議会の皆様と我孫子市の地産地消活動に取り組むことになりました。協議会では、副会長という要職ですが三宅会長の下、会員の皆様のお知恵をお借りしながら精一杯務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

当協議会は、平成16年1月に設立され、環境保全型農業の普及・推進、援農ボランティア活動、農家と消費者を結ぶ食育交流イベント、学校給食の支援等の活動を行っており、我孫子市の農業振興に多大な貢献をされています。

地産地消活動は、地域で生産された農産物を地域で消費することを通して、消費者と生産者を結び付ける活動です。こうした活動により消費者と生産者が『顔が見える』関係になるとともに、消費者が地域の農産物や加工品等を購入する機会が増加するものと考えます。また、消費者と生産者の距離が縮まり、消費者の地場農産物への愛着心や安心感が深まります。さらに、地場農産物の消費拡大、地元農業者の所得増や営農意欲の高まりにより、遊休農地や耕作放棄地の減少にもつながると考えます。



さて、現在市では、昨年7月に千葉県から無償譲渡された手賀沼親水広場内にある「水の館」の改修工事を7月から開始する予定です。手賀沼親水広場は、手賀沼浄化への理解を深める場として、水環境の保全啓発を目的に設置されています。このため、より多くの人に訪れてもらい、水環境の保全に興味・関心を持ってもらう必要があります。そのためには、ソフト・ハードを含めて間接的なサービス・機能を一体的に付加していくことが必要です。市では、環境保全型農業や地産地消の取り組みを推進するため「あびこエコ農業推進基本計画」に基づき農業拠点施設を「水の館」に整備することとしています。施設内には、農家と消費者の交流の場などの機能を持つ農産物直売所や農産物加工処理施設、飲食施設を整備します。また、協議会の事務室も置かれますので、ここを地産地消活動の拠点として、協議会、(株)あびベジ、我孫子市が連携・協力し、地産地消の取り組みをより一層推進していきたいと思っております。

協議会では各部会の事業に加え、交流人口の拡大と農産物販売の促進、雇用の拡大を積極的に推進するため、農水省の交付金を活用した「あびこ農力発見プロジェクト」（構成員：(株)あびベジ、協議会、我孫子市）に参画しており、我孫子市産の農産物を活用した加工品の開発・研究や料理教室・座学を通じた「食」の人材育成等に取り組まれています。会員の皆様に置かれましては、我孫子の農業振興を推進するため、引き続きご尽力くださるようお願いいたします。

結びに、会員の皆様のご健勝とご多幸を、心からご祈念申し上げまして挨拶といたします。

7. 新事務局紹介

小松 信彦事務長

この度、4月から当協議会の事務局を担当させていただくこととなりました。我孫子市つくし野に居住して早や30有余年となります。地産地消への関わりは初めての事ですが、何事にもあきらめない精神で精一杯頑張ります。終戦直後の広島で生を受け、18歳まで広島っ子として育ち、当然のごとく広島カーブを応援してまいりました。その後はほとんどが関東地区での



生活となり、得意の広島弁も忘れるほどになりました。職歴は顔の作りのせいでしょか誰もすんなりと認めては頂けません、最初は銀行に籍を置きコンピュータ部門で通信ネットワークを担当し、CS放送でおなじみの通信衛星に向けて銀行のATMが正常に動くかなど面白い実験を経験しました。また、銀行のビル管理部門を担当し、いまでも忘れられない阪神淡路大震災時には震災直後に現地へ赴き、大阪南港から漁船に乗って被災情報の収集と対策に翻弄されました。その後はIT業界を中心にプロジェクトマネージャーというコンサル業務を中心に67歳まで約50年間のサラリーマン生活でした。縁あって当協議会にお世話になりますが、事務局としてできるだけきめ細かく皆様のお手伝いが出来るよう頑張っています。どうぞご支援のほどよろしくお願いいたします。趣味は浅く広くなんでも興味ありますので、気軽にお声がけ頂ければ幸いです。

どうぞよろしくお願いいたします。

8. 第13回援農ボランティア養成講座開催について

援農ボランティア部会 植木康雄

本年も援農ボランティア養成講習を下記にて開催しますのでお知らせします。

1. 募集人員 15名 (何れも土曜日に実施)
2. 講座内容 開校日：10月8日 修了書授受：11月19日「農業まつり」にて
座学：10月8日、11月12日 2回
実習：10月15日～11月5日 4回(種まき、苗の定植、草取りなど)

“協議会・援農ボランティア及び農家の各会員の皆様へ”土いじりが好きな方、ボランティア活動をやってみたい方などお知り合いの方をぜひお誘い下さい。

9. 編集後記

広報部会 南 千春

援農ボランティア12期生の南と申します。この活動を始めて約1年が過ぎました。週末の活動では、農家さんから野菜作りや農家の実情等々伺ったり、ボランティア仲間である人生の先輩方から、家庭菜園から世界情勢のことまでいろいろな話をしたり、又、農家さんのところで頂いた野菜を使っておいしく食べるには何を作ったらいいとか、たくさん頂いた時には、お菓子里にできないかと作ってみたりとか、とても有意義な時間を過ごしていると感じています。そして、この援農の活動を始めて一番の変化だと思うことは、野菜や白米そのものの味をよく味わって食べるようになったことです。恥ずかしながら、これまでは、今のように意識してこなかったような気がします。日本の野菜は本当においしいです。旅行で海外に行ったりすると、特にそれを実感します。農家の方の野菜を作る姿勢をこの1年拝見し、日本の野菜が「おいしい」理由が分かりました。日本の農業を守りたい。そのために自分にできることは何かを考え、取り組んでいこうと思っています。